

おしっこソリスト・六花ちゃん

~今、求められている積極性の一つの提示~

サンプル

著 にゃこ

目次

ペットショップでの体験・・・・・・・・・・	3
観葉植物を育ててみようと思い立つなど・・	13
銭湯で、やってみたかった事・・・・・・・・	23
都市再開発事業で発掘された遺構・・・・・・・・	32
長岡花火を見に行った時の話・・・・・・・・	42
姉の布団の寝心地は、意外によかった・・	59
図書館の持つ静謐さ、私の習慣・・・・・・・・	69
トイレの清掃当番という、大切にすべき機会・・	79
セーフティネットとしてのポップコーン・・	88
街角に立つ少女を家に誘った・・・・・・・・	97
ブリオーニを着た悪魔・・・・・・・・・・	106
花酔い、花狂い・・・・・・・・・・	137
解説／各作品のシチュエーションの一覧・・	147

観葉植物を育ててみようと思ひ立つなど

今日入ってきた子は、本当にかわいかったな。

仕事中にお店に迎えられたペットは今まで扱った事のなかった犬種で、画像でしか見た事がなかったのだけど、目が利発そうにクリッとしていて。人なつっこい子犬で、嬉しゅんはしなかった。嬉しゅんをされると、私までおしっこしたくなってしまうから、かわいらしいと思うと同時に、ドキドキもしてしまう。

嬉しゅんをしやすいのは、コッカー・スパニエルやミニチュア・ダックスフント、トイプードルやチワワなど、感情を爆発させてしまいがちな犬たちだ。この子達のお世話をしていると、ブルブルと体を震わせたかと思うと、おしっここの匂いがムワツとしてくる事が多い。

おしっこを我慢している時は、つられて出口が緩んでしまわないよう、注意が必要だ。しっかりと括約筋の状態を意識していないと、私までちびってしまう事があるから、油断は大敵。

気に入った犬がお客さんに貰われていくのは、本当に残念だと思ってしまう。いわば商品が売れるのは、商売としてはありがたい筈なのに、ことペットショップでは感情移入してしまうから、心中複雑なものがある。我が子として迎える事ができたら、本当

に私の愛の全てを注ぎ込むのに。

ペットOKな物件には住んでいるけど、もうすこし蓄えができたら、もうすこし仕事に慣れたらと、夢は夢のままなかなか先に進められない。

私は、常に目につく場所に、何か癒しになるものを置きたいなとあれこれ思いを巡らせた。例えば、机の上とか。推しキャラのグッズやフィギュア、それに月替わりで、アイドルグループの面々を見られるカレンダーなども考えた。だけど、あれこれ世話を焼き、その成長を見守っていく方がきつと楽しいし、やりがいがあるに違いない。

そうだ、観葉植物なんてどうだろう。サボテンもいいけど、水や肥料をやるリスクと育ってくれる実感を持てるものを選ばなら、観葉植物だろうと考えた。

初心者向けの品種はいくつか出ていたが、中でもパキラが一番育てやすいように思われた。パキラ一種に絞っても、背の高さや枝ぶりなど、色々な選択肢があつて、私を悩ませた。

ねじれという、複数の幹がらせんのように絡み合ったものとか、斑という、葉っぱが珍しい品種であるとか、 magari という、松の盆栽のように骨張った幹のものであるとか。

どのサイトで見ても、初心者向けの観葉植物で一番に挙げられていたのはパキラだった。パキラは中南米産の植物で、成長が早いという。私は、小ぶりの鉢を卓上に置いて眺めていたいという思いが強かった。

私は友達みやむらなみの宮村七波に訊いてみる事にした。七波は高校の時の

同級生で、今は大学の四年生だ。もう、当時の雰囲気からは変わっているかもしれないけれど、高校当時は、ミルクティーペーじユの髪でゆる巻きの触覚ヘアにっていて、両サイドの耳上でやりわりとほぐされた、羊の耳のような編み込みツインという髪型だった。若干幼めの顔つきにしっくりと似合っていたのを思い出すと、七波の家に遊びにいった時、部屋に観葉植物が置いてあったことが、鮮明に思い出される。彼女に植物のうんちくを傾けられると、喋りが止まらなかったっけ。

そういえば、一人暮らしを始めてから縁遠くなってしまったなと感じた私は、久しぶりに話をしたいと思った。七波にメッセージを飛ばすすぐに返事が来た。通話のお誘いにも快く応じてくれた。

しばらくあちちに行ったりこちちに来たり、いろんな話で盛り上がったが、私は頃合いを見て、話題を切り替えようとした。ここからが本題だ。

「ねえ、七波」

「ん、なあに？」

「観葉植物を育てたいと思ってるんだけど」

『ああ、いいね！ いいよお、部屋に緑があるのは』

私の急な変化球に、七波は柔軟に対応してくれた。やっぱり、女の子は共感の生き物だね。こういう時に、ありがたみを感じる。

「七波は育てているんだったよね、観葉植物」

『そうだよ。って言っても、定期的に水やりとしたり、気まぐれにひなたぼっこをさせてやったり。お世話とは言えない感じでゆるくやってる』

「そういうのでもいいんだね。結構手間がかかるのかなって思ってたんだけど」

『色々調べて、そんなに難しい木を選んだからね』

「ふーん。というところ？」

『乾燥や日陰に強いって言われてるんだよ。寒さにはちょっと弱い所があるらしいんだけど、そこだけ気をつければ平気みたい』

「ちなみに、なんていう木なの？」

『ザミオクルカスって木だよ』

噛みそうな木の名前だ。知らなかったの、スマホを使ってサツと調べた。肉厚で艶やかな感じの葉が連なって生えていて、洗練された雰囲気をしていた。

「なるほど。ちよつと見てみたけど、葉っぱが可愛らしい木だね！」

『そうなの！ そんなに大きくならないみたいだし、机の隅に飾って眺めてる』

「他に、育てやすいっていったらどんな候補があるかなあ」

『そうだねえ、やっぱりパキラが第一選択肢に来るかな』

「やっぱりそうなのか。調べてたらみんなパキラって書いてあったもん」

『でも、ちょっと個性を求めるんだつたら違うのにしたいよね』

「それ思った。何がいいかな？」

『モンステラなんかも育てやすいんじゃないかな』

「モンステラ」

『そう、モンステラ。ただ、この木は成長が早いんだよ。二、三年に一回は鉢替えしていかないとだし』

「そんなに？」

『成長が目に見えるのは楽しいかもしれないけど、こぢんまりとした盆栽を愛でるみたいな楽しみ方にはならなさそうだね』

「それはちよつと困るかも」

『ゆつくり育つのを愛でていたいという事なら、フランスゴムがお勧めかな』

「フランスゴム？」

『うん、フランスゴム。調べてみるといいと思うけど、可愛い木だと思ふよ』

話しながら検索すると、枝がクニヤリと曲がった木が何件かヒットした。

「これかわいい！ 部屋で眺めてたいから、フランスゴムにしようかな」

『うんうん、ネット通販でもいろんな曲がり方の木が売られてるから、好みで選ぶといいよ』

「ありがとう！ ちよつと自分でも見てみるね」

『いいえ〜！ 分からない事があつたら何でも訊いて。あ、ちょ

つと値が張るけど、鉢も柄物とか選ぶと、かわいさがアップするから！ そういうのも選ぶ楽しさがあるよ』

「うん！ よく考えてみる！」

『何かあつたら、相談に乗るからね』

「はい。またね！」

『またね！』

私は通話を終えると、フランスゴムについて調べてみた。幹を曲げて育てやすい木のように、見栄えがする。

他にも、

- ・耐陰性が強く、室内でも枯れにくい。
- ・耐乾性が強く、水やりを忘れても弱りにくい。
- ・耐寒性が強く、十度程度の気温でも弱つてしまう事はない。
- ・葉が小さく、埃が溜まりにくい。

等の特徴があるようだった。うっかりのズボラさんにも育てる事が出来るのでは？ 私にはおあつらえ向きだと思えた。サボテンを枯らしてしまった苦い経験があつたけど、フランスゴムはタフな部類の木のようにだ。

私はペットであればほんの生まれたてくらいの小さな頃から一緒にいたいと思うし、観葉植物も、若い木から育てたいと思った。だから、鉢はまだ小さく、小ぶりで大きく成長していいものを選んだ。

鉢一つ取ってもバリエーションが豊富で、七波の言う通り、いろんな柄や形のが選べた。中でもかわいい柄のものが欲しく

て堪らなくなる。シンプルな鉢は安く済ませる事ができるけど、柄の凝っている鉢の魅力に負けた。

◇

注文して数日後、大きなダンボールに梱包されたフランスゴムの木が届いた。今日日、ネットで手に入らないものなんてないんだなと、ちょっと感動した。

早速、注意深く開梱した。

葉や枝が傷まないよう、とても丁寧な梱包だったから、早くご対面したくて気が急いってしまった。

一メートルくらいの高さの、意外に大きな鉢だった。でも、部屋のパソコンで使っているスピーカーの上に乗せるのに、ちょうどいい大きさだった。重みも思っていたよりも軽く、扱いやすい感じだった。

そして鉢の写真を撮り、七波に送った。

『フランスゴム！ 届いたよ』

『おお、枝の曲げ方がカッコいい！』

『でしょでしょ』

『成長期だと木を曲げやすいから、調べてチャレンジしてみてもいいかも』

『わかった！ 急にメッセージごめんね。なんだか嬉しくって』

『ううん、全っ然』

『ありがとう』

『いいえ』

私はメッセージのやり取りを終えると、再びゴムの木を矯めつ眊めつした。これからこの子を甲斐甲斐しく世話していくんだと思うと、高揚していく自分の心を感じた。

——やだ、ワクワクしたら、おしっこ出そうになっちゃった。

七波と話している時から、尿意は感じていたけれど、漏れてしまいそう、という程のものではなかった。

『くう……ん』

嬉しんのような、急な下半身の疼き。

本当、子犬になったみたいだ、私。

子犬たちは、この感覚が来たら、躊躇なくじわあ……と出してしまうんだ。

おしっこは肥料にもなると言うし、水分補給も兼ねて、鉢にかけてやつてもいいのでは。突然の尿意は思ったよりもずっと強く、トイレまで立つて移動できるか怪しいくらいだった。

私は急いで下着を脱ぐと、膝立ちになった。股間の下に鉢が来るようにして、出口の位置を微調整し、あそこをクイツと引っ張るとゆっくりと緩めていった。

『あっ……』

ブジュ、シヨイイイ……

ふう、おしっこかかてるー。

あまり勢いよくおしっこすると、狙いを外して床を汚してしま

いそいだつたから、ゆつくりとおしっこを出していった。

ジュウウウ……

噴き出すようなおしっこではなかったから、早くすっきりしたいというもどかしさはあったけれど、新たなシチュエーションでおしっこを開放した事に、興奮する気持ちがなかったかという嘘になる。

ジョワァァ……

鉢の土におしっこが行き渡ったようで、土に挿してあった、水やりチェッカーが青く変わった。インジケーターの色の変化は、水分が十分与えられているという意味を持つ。

ふう、すっきりした。

マーキングが完了してしまった。

これで、この木は名実共に私のものとなったのだ。

——続きは本編でお楽しみください！

